

編集後記

「眞實心」第二十集をお届けします。一九九八年度の宗教講座が収められています。

皆さんは本学で仏教を学ばれ、宗教講座なども聴かれたわけですが、宗教を見直すきっかけになつたでしょうか。なかにはとてもと言われる方もあることでしょう。

しかし、宗教の周辺に作り上げられたさまざまな観念が、宗教本来の姿を歪曲してしまったこともあります。宗教そのものまでもが意味を失つたのではありません。もちろん宗教は形骸化した儀式や伝統となんの関係もないばかりか、生きることに倦み疲れた人々が安易に駆け込む現実逃避の場でもありません。むしろ宗教はわれわれの内なる実存の最も深いところで、あなた自身が探る仏（神）の存在可能性であり、それを仏教は「仏性」と呼び、誰もが本来平等に具えているものなのです。そして悟れる者（仏）もかつては、われわれと同様、生死の苦海（親鸞の言葉）に沈む常没の凡夫であつたのです。さらにわれわれは親鸞や空海が言うように、世々生々の父母兄弟であり、いずれも仏になるべき存在であるにもかかわらず、好悪、美

醜、貴賤、優劣……とさまざまに人を分け隔てる。

仏も昔は凡夫なり 我等も終には仏なり

いざれも仮性具せる身を へだつるのみこそかなしけれ

「平家物語」「祇王」

われわれ凡夫が仏となる変容のときが誰にもいつかは訪れるであろうとみているのだが、これから的人生で、もしこんなことが問題になつたら、この「眞實心」をひもとき、また学生時代に学んだ仏教の教えを思い出して下さい。

最後になりましたが、ご講話をお願ひしました先生方には、ご多用の中、原稿にお目通しいただいたことを厚く御礼申し上げます。なお、本文の文責はひとえに編集委員にあることをお断りしておきます。

(編集委員)

一九九九年三月一〇日發行

眞 実 心 第二十集

非売品

發行所

光 華 女 子 大 学

〒615-0882
京都市右京区西京極葛野町38

電話(075)-312-1783(代)

印 刷

中 村 印 刷 株 式 会 社

〒601-8133
京都市南区上島羽柴田29
電話(075)-882-7666(代)